

令和7年度 第3回酒田市ボランティア・公益活動推進委員会 会議録

日 時 | 令和8年2月12日(木) 10:00~10:40

場 所 | 酒田市交流ひろば

1 開 会

2 あいさつ

会長

3 協議事項

(1) 令和7年度公益活動施策進捗状況報告および令和8年度活動計画(案)

(質問・意見等)

委 員：障がい者アート展について。ギャラリートークの際、スタッフが作者の思いをきちんと踏まえてひとつひとつ説明しており非常に感心した。佐藤真生さんもその都度コメントをしていた。来場者1,042人という人数は例年通りなのか、多いのか少ないのかわからないので教えていただきたい。

事務局：昨年度は717人。初めて1,000人を超え、これまででいちばん多い。

委 員：ぜひこれからも続けていただきたい。解説が非常に素晴らしい。ひとつひとつの作品にコメントをするのは大変だと思うが、聞く側からすると、そういう思いで作ったのだなとよくわかってよかったと思う。

会 長：出羽遊心館での開催前にミライニでも開催していたが、その人数も含まれているのか。

事務局：その人数は含まれておらず、出羽遊心館のみの人数。

委 員：希望ホールで開催していたこともあり、その時も素晴らしかった。

会 長：ここ数年は出羽遊心館で定着している模様。

委 員：酒田市子ども食堂エピソード共有公開ワークショップについて。子ども食堂は酒田市内だけではなく、県内各地で実施されていると思う。認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえが後援・協力とあるが、県のネットワークもあるのかどうか教えていただきたい。

事務局：山形県社協がこどもの居場所づくりとして子ども食堂のことも含みつつ、県内全域で支援活動を行っている。

委 員：酒田市内や県内で、子ども食堂の数は横ばいなのか、増えているのか。

事務局：酒田市内は増えている。今年度1団体、昨年度も1団体増えている状況。

委員：関心を持っている人が多いと思われる。

事務局：むすびえからは2名ご参加いただき、こども食堂の運営者5名によるエピソードトークの際に話を引き出す役割、また、全国のこども食堂の状況や意義を補足してご説明いただくという役割を担っていただいた。

委員：ファシリテーターの役割。素晴らしいと思う。

委員：こども食堂エピソード共有公開ワークショップに参加した。これまでこども食堂の意義については自分自身思うところがあったが、運営者や参加者から思いを伺え、とても理解が深まった。運営者のエピソードトークも有意義だったし、グループトークでは高校生や大学生の考えも聞くことができ、素晴らしいイベントだった。こども食堂に限らず、ボランティアや公益活動への関心と参画の拡大を目的としたワークショップを他の分野でも実施していただくと、取り組みへの理解度が深まると思う。大変だと思うが、このような会は続けていただけるとありがたいと思う。

事務局：ご参加いただき大変ありがたい。今回はこども食堂の分野で行ったが、他の分野でもこのような取り組みができるとよりよいのではないかと事務局でも考えている。ただ、具体的には未検討段階というところ。活動している方からのエピソードトークも重要だが、ファシリテーターの役割も重要だと思っている。団体にとっては普通のことでもファシリテーターから引き出してもらうことで、参加者が意義を感じ取りやすくなる。その役割を担う人が必要であり、今すぐに取り組むのは難しいが、他の分野でも行うことができるよう、今後の検討課題にしたいと思う。

会長：試行錯誤の中、いくつか実績ができたことは非常によかった。また、うまくいかなかったこと、これからもっと検討が必要であることも見えてきたのかなと思う。

〈活動計画（案） 質問・意見等〉

委員：こども食堂エピソード共有公開ワークショップ開催日の午後、酒田コミュニティ財団の設立記念イベントがあったが、若い人たちも参加したのか。

事務局：新たに事業に取り組もうとしている若者たちによるプレゼン形式のイベント。発表者として高校生の参加が多かったと聞いている。

委員：ホームページによると、寄付金を活用した具体的な活動はこれから。高校生や大学生が多いと感じた。寄付金は700万円以上集まっている。個別の事業に対して、公益活動支援補助金の利用は可能なのか。

事務局：利用していただければありがたいが、公益活動支援補助金は自己負担が必要であり、高校生が利用する場合は厳しいかもしれないという話をコミュ

ニティ財団の方から聞いたことがある。

委員：優れたスタッフやアドバイザーとともにいいスタートを切ってもらいたいと思う。

委員：コミュニティ財団が休眠預金を活用して、まとまった金額で3年間活動という話があったが。

事務局：休眠預金は採択されなかったため、その後に寄付金をお願いして基金が集まっているという状況。

委員：コミュニティ財団スタッフには休眠預金を活用している人もいる（ので期待したい）。

事務局：今後も休眠預金の活用は考えられる。

委員：休眠預金の資金分配団体にしても、活動団体にしても、全国に比べて県内の動きは活発ではないので、動きが出ているのかなと思う。

事務局：コミュニティ財団のスタッフのうち、別の団体で休眠預金を活用している方もいるので、その経験が生かされるのではないか。

会長：コミュニティ財団が言うところの若者とは、行政用語の39歳までということではなく、一般的にイメージする若者なのかどうか。

事務局：サンロクが高校生などを主な対象にしているアントレプレナーシップ講座を行っているので、必然的に今は高校生が多いのかなと思う。

会長：コミュニティ財団との連携については、財団の活動がもっと見えてくる中で、来年度検討になる。この案を進めることでよろしいか。

委員一同：この案のとおりでよい。

4 その他

5 閉会